

第4学年2組 音楽科学習指導案

第2校時 場所 体育館 指導者 上原 正士

1 題材名 ようこそ！サウンドキッチン ～ペーパーアンサンブル～

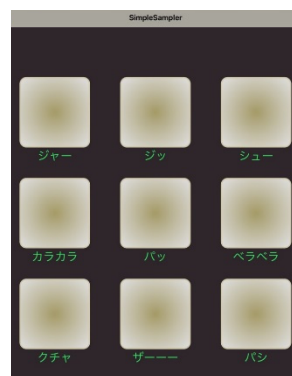
中学年の音楽づくりでは、リコーダーによる簡単なふしづくりのほか、小物打楽器やリコーダーを用いて、主に音のつなげ方に着目した音楽づくりが掲載されている。このような音楽づくりは楽しいものだが、子どもが奏法に難しさを感じ、肝心の音楽の仕組みに焦点が当てられないことがある。演奏の難しさにとらわれることなく、音楽の仕組みのよさや面白さに着目しながら音楽づくりのたのしさを味わってほしいと願う。

そこで、本題材では、紙を使ったリズムアンサンブルをつくる音楽づくりを提案する。紙から生まれる音そのものは、子どもの生活の中にありふれたものである。しかし、これら表現したいことに合うようにつなげたり重ねたりすることで聴こえ方が変わり、そのよさや面白さを感じ取ることができる。このような姿を生み出すために、テーマを「サウンドキッチン」に設定する。これにより、子どもたちは選んだ料理をつくる工程を想定して音を考え、音をつなげたり重ねたりしながら音楽をつくり始めるだろう。さらに、つなげ方の間に着目しながら友達と作品を聴き合うことを通して、試行錯誤を重ねながら音楽をつくっていくたのしさを味わっていけるようにしたい。このように身近な物からできた音を音楽に構成していく活動を通して、音楽の仕組みのよさや面白さに気付きながら粘り強く表現を追求する力を身に付けることができると思う。

2 題材について

- (1) 本題材では、友達と紙を用いた音楽づくりをする活動を通して、音楽の縦と横との関係について、それが生み出すよさや面白さに関わらせて感じ取り、発想を生かした表現を工夫してリズムアンサンブルを楽しむことを目標としている。

今回は、「サウンドキッチン」のテーマのもと、同じ料理を表現する子ども同士でグループをつくり音楽づくりに取り組むようにする。子どもたちは音探しの活動において、つくる音楽に取り入れたと思う音をアプリ「SimpleSampler」を用いてサンプリングし、演奏したり録音したりしていく。



題材の導入では、身の回りの生活音に耳を澄ませた題材において、

単なる音もつなげ方を工夫すると音楽になるという気付きをしていたことを振り返り、紙から出る音をどのようにつなげていくかに焦点を当てて活動を始める。グループでの音楽づくりに取り組む中で、子どもたちは一皿の料理の調理工程を表現することにまず向かうだろう。一方で、音と音をどうつなげていくとよりよい音楽になるのかについて疑問をもつだろう。中間発表会では、音と音の間に着目しながら聴き合うことで、思いや意図に合った表現を追求することができるようにする。

- (2) 3年生では、「音の響きや組み合わせをたのしもう」では反復や変化を生かした音楽づくりを経験してきた。本題材では、音と音の間に着目しながら、意図的な音楽表現へ向かうようにする。音のつなげ方や重ね方を扱う本題材での学習は、複数の楽器を用いたアンサンブルや、ふしづくりへと発展していく。
- (3) 本題材に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数35人)
- ① 音楽づくりの授業が好きな子どもが多いが、苦手意識をもっている子どもが4名いる。
 - ② リズム譜を読んで打つことは全員できるが、内2人は聴いて楽譜に書くことが難しい。

3 題材の目標

- (1) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さに関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 音楽の仕組みを用いて音楽をつくることに興味・関心を持ち、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、リズムアンサンブルに親しむ。

4 指導計画（6時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 学習の見通しをもつ。	○ 事前に録音した紙の音を聴かせ、紙を使った音楽づくりに興味をもてるようにするとともに、音をつなげて音楽にしていこうという視点をもって取り組めるようにする。	【思】紙から生まれた音色を聴き取り、聞き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考えている。 (観察、振り返り)
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	2 グループでリズムアンサンブルをつくり、その表現を追求する。	○ 楽譜は、演奏する子どもごとに段を分け、用いる音を番号で記入するようにする。また、表したいイメージを楽譜の最下段に書き込むようにすることで、用いる音色と表したいことの関わりに留意できるようにする。 ○ 中間発表会では、つなげ方に着目しながら相互鑑賞し、音のつなげ方の特徴が生み出すよさや面白さに関わらせて理解できるようにする。 ○ 中間発表会の後には、作品をつくり直す時間を設定し、前時の学習を通して新たに発想したことを取り入れたり、自分たちの作品に込めた思いや意図を明確にしたりして作品を仕上げるができるようにする。 ○ 特に、本時の学習では、音と音の間隔をなくすことにこだわった班の作品と、その他の作品を比較しながら鑑賞することで、間に注目したつなげ方のよさや面白さに気付けるようにする。 (本時5/6)	【技】思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けている。 (観察、振り返り) 【知】音楽の仕組みについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。(観察、振り返り) 【思】音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(観察、振り返り)
6	3 演奏を楽しみ、題材全体の学習を振り返る。	○ 自分たちの作品について作品紹介を書かせることで、表すイメージ、そのために工夫した表現とそのよさ、及び学びの過程を振り返らせ、本題材での学びを自覚できるようにする。	【主】音楽の仕組みを用いて、音楽をつくることに興味を持ち、学習活動に取り組もうとしている。 (観察、振り返り)

5 本時の学習

(1) 目標

曲を途切れさせないことにこだわった班の作品の鑑賞を通して、間に関して自分たちの作品を振り返り、思いや意図に合う表現をすることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。	○ 私たちの班は途切れないように意識して作品をつくったから、みんなに聴いてほしいな。 ○ 僕たちの作品に比べて、かなり速いな。曲が短いのかな。 ○ 音と音の間がほとんどなかったのが特徴だな。手際のいい料理人さんが料理をしていそうだった。 ○ 私たちが途切らせることなく音を出そうと思ったわけは、プロの料理人さんがパパッと作るあたたかいおいしい料理を表現したかったからなんだ。
10	2 前時の作品と間をとらない作品を比較して鑑賞し、違いについて話し合う。	○ 僕たちのも、パパッと料理をしているイメージだな。途切れないようにつくり直してみたい。 ○ 全部途切れられない作品をつくってみたけど、何がなんだかかわからない作品になっちゃったな。一つ一つの音が聴き取れない。途切れないようにすることだけに気を付けるだけじゃ足りないな。 ○ 途切れることが必要な部分もあるのではないかな。 ○ 例えば、材料を洗って切るでしょ。その後焼くとするでしょ。そのときって、少し途切れた方が、強調されると思うんだよね。料理の仕方が全然違うし、焼く音って聞かせたいじゃん。
20	3 自分たちの音楽をつくり直す。	○ 私たちの作品だと、油で揚げて、お皿にとるところは急ぐから途切れさせない方がいいと思う。急いで取り上げるから。 ○ あれ？なんかおかしい。ジュワ-の音で、乗せる音が消えちゃっている。間を空けて、ポンって乗せた方がいいよ。 ○ いろいろな野菜を切るところで間を取りすぎているんじゃないかな。ここは途切れなくしていろいろな野菜を次の音がすぐ出せるように準備したり、少し音が重なるくらい早く音を出すようにしたりしてもいいかもしれないな。 ○ 逆に、油で揚げる音の前は、「ウン、ウン」くらい間を取って、ジュワ-っていう音がはっきりするようにしたいな。
10	4 本時を振り返って次時の見通しをもつ。	○ 今日は間の取り方について考えました。私たちは、どの音の時も同じくらいの間をとっていたから、面白くないように感じたのだと思います。油で揚げた音が一番盛り上がる部分なので、そこまでは間をなるべく取らないようにして、揚げる音が強調されるように直前で間をとるようにするといいと思いました。このようにして、他の部分でも表現したいことに合う間の取り方を考えていきたいです。



新聞紙を使って料理の音を見つけ、つなげてみた子どもたち。しかし、調理する順につなぐだけでは満足できず、改善していきたいと考える子どもがいます。本時では、音が途切れないように工夫した班の作品を鑑賞し、思いや意図に合う間になっているかという視点で自分たちの作品を見直していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示，教材・教具，評価）

- 曲を途切れさせないことにこだわったことを書いている子どもの振り返りを取り上げ、音と音の間に着目しながら鑑賞することができるようにする。
- 聴き取った間の特徴と感じたことに関わりについて発言があったときは、拡大楽譜に小節線を引き、その間の長さと感じた様子などについて板書する。
- この作品をつくった班のメンバーが表現したかった思いやそのよさを語らせて、そのような工夫をしているか周りの子どもに問うことで、間をとらない表現をしてみたいという思いを引き出して、以下の課題を設定する。

間をとらない表現をすると、作品はどう変わるだろうか。

- 前時の作品と間を取らない演奏を比較しながら聴くことで、間がなくなることによって生まれた効果に焦点を当てて気付くことができるようにする。
- グループ内で、間がなくなることによって生まれる効果について発言がないときには、自分たちがつくった音楽に間を取って演奏することを促し、違いに気付けるようにする。
- 机間指導において、どこでどのような間の取り方をするとよいか考え、工夫している班を見取って取り上げることで、間を取るよさをについて話し合えるようにする。
- 間に関する発言を、拡大楽譜の該当部分に小節線を引き、その間の長さで表れた様子について板書することで、間の工夫の具体とそのよさに気付けるようにして、以下の課題を設定する。

【教材・教具】

- 大型テレビ
- 発表班の拡大楽譜
- 空の拡大楽譜
- 学びのあしあと

間に注目すると、自分たちの作品はどのように変えられるだろうか。

- 楽譜に間の長さで表したいことに関する書き込みをしている班があった場合は、取り入れた理由をたずねて、自覚的に思いや意図に合った取り入れ方ができるようにする。特に、長い間をとる工夫をしている班については、表したいことを聞き取って価値づけることで、間の取り入れ方の選択肢が広がるようにする。
- 振り返りの視点として、前時につくった作品と比べて、どんな工夫をしたことで、どのように変わったのか書くようにすることで、間の取り入れ方の工夫とそのよさを関連づけて捉えることができるようにする。
- 振り返りで間をどのように取るようにするとよいかについて、表したいことと関連付けて書いている子どもに発言を促して、本時の学びを自覚できるようにする。

【評価】

表現したいことに合った、間の取り方を考えて工夫することができる。
(振り返り)

